

「周年放牧体系」の強みを生かす 畜産振興

鹿児島県十島村産業振興室 永田 勇樹

村の畜産業の現状

十島村は、鹿児島本土から南南西方向へと伸びる琉球列島の北部、屋久島と奄美大島との間に挟まれた、有人七島と無人五島の一二島からなる村です。トカラ列島とも呼ばれ、南北約一六〇キロメートルにおよぶ「日本一長い村」としても知られています。火山島、珊瑚礁の島、温泉の島など、それぞれに特色を持つ豊かな自然と、大和・琉球の両文化の影響を受けた祭りや郷土芸能など独特の文化を有し、本土では味わうことのできない体験をすることができる、貴重な地域です。本土から隔絶された外海の島々のため、厳しい生活環境ではありますが、村には六七〇人（令和七年三月現在）の自然に寄り添った暮らしがあります。

基幹産業は、農業・漁業などの第一次産業です。このうち

畜産業（肉用牛・牛生産）は、広大な原野を利用した「周年放牧体系」で、令和六年度の出荷頭数は四五〇頭、売上額は約二億円となっています。畜産業は、大きく肥育農家と育成牛農家に分けられますが、本村で行なわれているのは育成牛の生産です。約一〇カ月程度の子牛を鹿児島市内の市場へ出荷しています。輸送手段が村営定期船「フェリーとしま2」のみのため、セリの日に合わせて、各島から同船によって輸送する、全国的にも珍しい出荷体制をとっています。

十島村の畜産の歴史は長く、かつては村内に馬喰ばくちやうが訪れ、牛を購入していました。その後、昭和六二年一月に念願の市場出荷が可能となり、適正な価格での売買ができるようになりました。周年放牧体系であったため、加入の難しかった家畜共済制度にも、令和三年五月から加入ができるようになってきました。

直近5年の各島の農家軒数の推移

(軒)

島名	令和2年	3年	4年	5年	6年
口之島	10	10	9	9	6
中之島	10	10	10	10	8
諏訪之瀬島	12	11	12	12	12
平島	8	8	8	8	7
悪石島	6	6	6	6	5
小宝島	5	5	5	5	5
宝島	6	5	6	6	8
計	57	55	56	56	51

各島の農家の年齢構成(令和6年12月現在)

島名	20代	30代	40代	50代	60代	70代	農家軒数	平均(歳)
口之島	-	1	1	-	3	1	6	56.2
中之島	-	1	2	-	5	-	8	55.8
諏訪之瀬島	-	1	2	3	2	4	12	60.3
平島	-	-	1	-	4	2	7	63.6
悪石島	-	-	-	3	2	-	5	57.4
小宝島	-	1	1	-	2	1	5	56.0
宝島	1	1	-	2	3	1	8	54.0
計	1	5	7	8	21	9	51	57.8

以前は、島の子牛が「未登記牛」であったため、本土の子牛との間に価格差がありました。そこで、村として未登記牛の解消に取り組み、国や県の事業を活用して新たな母牛の導入を行なうなど、生産母牛の改良を促進したことで、現在ではその差はなくなってきています。

本村では、畜産業を地域の重要な基幹産業に位置づけ、充実した支援を実施し、安心して畜産業を営むことができる環

境を整備してきていますが、近年、畜産農家の高齢化や後継者不足などによる牧場の維持管理や人工授精師の確保などが大きな課題となっています。また、後継者や新規就農者の育成・確保に加え、天候不良で定期船が欠航・抜港し出荷日が増えるなど輸送面においても課題を抱えています。

畜産の振興を図る村の取り組み

十島村の畜産振興を図っていくうえで、大きな障壁となっているのが、輸送費です。牛舎建設を例にとっても、建築資材など多くの物資に海上輸送費が上乗せされ、本土で建設するよりもかなり割高となつてしまっています。本村では、このハンデを少しでも解消するため、以下のような営農支援や補助制度を実施しております。

一つ目は、子牛と飼料の「海上輸送運賃補助(飼料運賃補助/子牛出荷運賃補助)」です。十島村と鹿児島本土における畜産業の一番の違いは、海上輸送の有無だと思います。本村では、このハンデを解消するために、子牛の出荷は一頭につき二一〇〇円、飼料についても国の「特定有人国境離島交付金」を活用し、海上輸送運賃の八割以内を補助しています。海上輸送の課題は、今後もずっと続くものなので、本土とのギャップが少しでも縮まるよう、村としても継続的に支援していきたい



十島村では、広大な原野を利用した周年放牧が可能。



小宝島にて。子牛の出荷の様子。

たいと考えています。

二つ目は、生産施設の整備・改修に対する支援のほか、天災などによる被害の現状復旧を図るため予算の範囲内で補助金を交付する「生産施設整備補助」です。要綱に定められている機械などの購入支援も行っており、新規・既存を問わず多くの畜産農家が活用する、新規就農や事業拡大への貢献度の高い事業となっています。また、村では、各島に公共牧場を所有しており、各畜産組合員の協力のもとこれら牧場を整備しています。村が有刺鉄線・鉄柱を購入・整備することで、住民生活の安心・安全を確保するとともに、畜産農家の労力や生産コストの抑制を図っています。

三つ目は、「十島村畜産振興繁殖雌牛預託事業」です。優良な繁殖雌牛を導入・預託しやすい環境を整備することで、農家の繁殖雌牛の増頭、肉用牛の改良などを支援しています。

このほか、畜産をはじめ村で新しく事業を始める方に向けて「十島村新規就業者支援制度」があります。この制度は、新規就業者が経営を開始するために必要な準備資金などの貸付により、新規就業者の育成と定着化および定住促進を図り、地域の産業振興を促進することを目的としています。対象者は、新規に事業を始める者と、本村に住所を定めてから五年を経過しておらず、生産基盤などの確立がなされていない五六歳未満の者としています。

村では、これらの支援により、今後も本土とのギャップの解消、農家の基盤確立や畜産業の継承に貢献できるよう取り組んでいきます。

新規就農者の確保・育成が課題

十島村では、上述のような就業支援や各種移住・定住施策を実施しているほか、都市部などで行なわれている移住相談会や地元の農業大学での就職説明会に参加し、就農者の確保に努めています。過去五年間で三名の畜産農家の就農実績があります。就農希望自体の絶対数が少ないうえに、畜産業の志望となるとさらに数が限られ、人材の確保に苦慮している状況です。

本村の畜産の最大の強みは、周年放牧が可能な点だと思えます。一般的に畜産業を始めるためには、母牛や子牛を飼育する牛舎が必要となりますが、十島村では、母牛を放牧体系で飼育しているため、畜舎飼いと比較すると、必要な初期投資が小さくて済みます。また、牧草地を利用するため飼料代などを軽減できる点も強みの一つです。しかしながら、畜産業で収入を得ようとすると、種をつけてから出荷にいたるまでに二年間ほどの時間を要します。その間、「就業者育成事業」などの支援メニューを活用しながら、自立に向けた就業

をすることができるとも、本村の利点です。

これらの支援事業を十分に実施していくことで各畜産農家の定着化、規模の拡大などを図るとともに、分娩間隔の短縮



飼料用の牧草地。

や自給飼料の確保などに力を入れ、生産性の向上とコスト削減に取り組んでいきます。また、ICTなどの新技術を活用した「スマート畜産」の促進による労働時間や飼料の削減も、今後の課題だと認識しています。

持続可能な畜産業の実現に向けて

先述の通り、十島村で畜産業を振興していく上での大きなハードルの一つが輸送問題です。子牛の出荷に際しても、定期船が唯一の輸送手段となるため、天候や船の運航の動向、セリ日の確認、セリに合わせた子牛の体調管理など、本土と比較して非常に複雑なさまざまな調整が必要となります。必ず海上輸送が入るため、飼料代や敷料（牛の寝床に敷く稲ワラやオガクズなど）代なども割高となり、畜産経営に多大な影響を及ぼしています。近年の飼料価格の向上や燃料費の上昇なども経営負担の増大につながっています。

また、本庁（十島村役場は鹿児島市内に所在）と各島が離れていること、有人島が七島あることなどから、十分な営農指導が難しいことも課題です。

獣医師の確保も非常に厳しい状況で、現在、二名の獣医師により全七島の牛の治療などを実施していますが、各島の移動は基本的に定期船となるため、治療までに時間を要してし



鹿児島本土の市場でのセリの模様。

まいます。獣医師の移動にかかる負担なども勘案すると、全島に獣医師を配置することが理想ではありますが、人件費はもちろん人材確保の面でも難しい状況となっております。

このような状況のなか、十島村では、強みでもある「周年放牧体系の維持」がますます重要になってくると考えています。農家、飼育頭数が減少することにより、牧場の維持管理も難しい状況が見込まれるため、より一層の新規就農者の確保、飼養頭数の増加に取り組み必要があります。

全国の多くの自治体と同じように、十島村も後継者不足、人手不足が深刻な課題です。担い手の確保に向け、各島はもろん村全体での取り組みや、地域をまきこんだ移住対策などを推進するとともに、AIやIoTを活用した管理体制の整備などスマート畜産を積極的に進め、生産性の向上や分娩事故などのリスクの軽減に努めていきたいと思えます。

あわせて、事業継承を確実に進めるため、廃業を検討している農家から、これまで培ってきた技術や施設などをしっかりと引き継ぐなど、持続可能な畜産業の実現に尽力していきたいと考えています。

永田 勇樹 (ながた ゆうき)

昭和六三年八月生まれ。鹿児島県鹿屋市串良町出身。大学卒業後、さまざまな場所で畜産の知識や技術を学ぶ。平成二八年七月十島村役場入職。現在、地域振興課産業振興室畜産係九年目。